

人間行動学科



心理学コース

● 心理学コースとは

心理学は、人間のとるさまざまな行動から、目に見えない心の働きについて科学的に明らかにすることを目的としている学問です。心理学の問いは多岐にわたります。たとえば、同じ状況におかれても、人によってとる行動は異なります。このような個人差はなぜ生じるのでしょうか。また、人は集団の中に入ると一人のときとは違った振る舞いをします。それはなぜでしょうか。人間は経験によって変わります。そこにはどのような法則があるのでしょうか。人間の記憶や推論は、どのくらい正確なのでしょうか。人間と動物はどこが違うのでしょうか。心理学コースでは、このような問いに答えるために実験や調査を行いながら、心とは何かを考えるとします。心について探究したいと考えている人ならどなたでも歓迎します。

● 先生の研究



教授 やま ひろし
山 祐嗣 先生

人間の認識を情報処理とみなす認知心理学のアプローチで、人間がどのように推論を行うのかを研究しています。推論は、勘違いなどで誤りを犯しやすいことが知られていますが、私は「人間の推論はどのような意味で適応的なのか」という問いで、直感的な推論と熟慮的な推論を区分する立場をとっています。そして、ヒトの進化の過程の中でそれぞれの推論にどのような適応的な意味があったのかという問題や、文化的適応とは何なのかという問題に取り組むために、比較文化研究を行ったりしています。また、近年は、人類の文明的発展とともにどのようなようにしてモラルが形成され、それが直感的あるいは熟慮的な推論としてどのように人間の反社会的行動を抑制しているのかという問題にも興味をもっています。

● 学生にインタビュー

○コースに入ったきっかけ

私は高校生の時から心理学をしたいと思っていて、心理学コースを希望しました。将来は公認心理師というカウンセラーになるための国家資格をとりたいと思っていますのですが、文学部の心理学コースではカウンセラー的な心理学とは少し違って、心の働きを調べるために実験・調査といった手法を用います。このように、実験ができるというのも心理学コースを希望した一つの大きなきっかけです。

○自身の興味

私はヒューリスティック（＝楽に早く正解らしいもの）を導くプロセスとバイアス（＝思考の偏り）がどういふふうに行動や意思決定に影響するのかということに興味があります。少し難しい単語なので、興味がありましたら調べてみてください。きっとおもしろいと思います。

○コースの雰囲気・特徴

何より実験できるのが面白いと思います。2年生時にはクラスでまとまって基礎的な心理学の実験を一通り行いますが、学年が上がると先生などのサポートのもと基本的に自分で実験を計画して実施します。コースは1学年15〜20人と少人数で雰囲気も良いため、仲を深めることができると同時に、互いの意見交換により研究内容を深めることができます。



3回生 あだち しんたろう
足立 真太郎 さん

● 教員紹介

池上知子 教授 Tomoko Ikegami

社会心理学：対人認知、偏見とステレオタイプ、社会的アイデンティティと社会システムの関係
『格差と序列の心理学—平等主義のパラドクス—』（ミネルヴァ書房、2012）

川邊光一 准教授 Kouichi Kawabe

生理心理学：高次認知機能（特に学習・記憶）の脳内機構、精神疾患動物モデルに関する行動薬理学的研究
“Effects of early postnatal MK-801 treatment on behavioral properties in rats: Differences according to treatment schedule”, Behavioural Brain Research, Vol.370,(2019)

佐伯大輔 准教授 Daisuke Saeki

行動分析学：判断、意思決定、選択、推論
『価値割引の心理学—動物行動から経済現象まで』（昭和堂、2011年）

山 祐嗣 教授 Hiroshi Yama

認知心理学：推論、思考の潜在性・顕在性、比較文化研究
『「生きにくさ」はどこからくるのか—進化が生んだ二種類の精神システムとグローバル化』（新曜社、2019）
“Adapting human thinking and moral reasoning in contemporary society” (IGI Global, 2019)

● 卒論タイトル例

- ・成人の愛着スタイルと束縛行為・暴力行為に対する感情反応の関係
- ・ハトのリスク選択に及ぼす報酬量の効果—確率割引とエネルギー収支の観点から—
- ・高校生の学習活動における行動分析学的介入の効果—協同学習、自己記録、フィードバック、目標設定について—

● 心理学コース

オススメ入門書

- 『サピエンス全史(上)(下)』
- 【著者】ユヴァル・ノア・ハラリ
- 【紹介】

大阪市立大学文学部の心理学コースでは、科学性を志向する実験心理学を学ぶことができますが、残念ながらこの種の書籍は教科書的なものがほとんどで、実際に実験などを行いながら読まないとい理解しにくいのです。ここで紹介するサピエンス全史は、「人間とは何か」について考えている人にとつて、これほど刺激的なものはないと思われる書籍です。社会的哺乳類として進化した人類が、生存と繁殖のための問題を解決しながら地球上で生き残り、高度な文明と文化を創生するという、他の生物にはできなかったことを成し遂げた要因と意味を、実験心理学において重要な「適応」という視点でみごとに解き明かしています。心理学という用語はほとんど出てこないものの、心理学コースでよく登場するキーワードである「認知」、「差別」、「虚構としての制度」、「意思決定」、「無知と科学」、「ヒトと他の生物との違い」などがテーマとして登場しています。